

伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	まちなかエリア高度化 WG			
開催日	2025 年 2 月 13 日(木)			
開催時間	開会	18：30	閉会	20：20
開催場所	市役所 5 階 501 会議室 オンライン併用			
出席者				
協議会・WG メンバー	会場：土田智氏 O L：黒河内貴氏、志知貴文氏、鈴木孝之氏、政金裕太氏、			
事務局・職員	会場：企画部：織井企画政策課長、有賀企画政策課長補佐、 村田新産業技術推進係長			
関係者	—			
欠席者	細谷啓太氏、瀧内貴氏、福原新産業技術推進コーディネーター			
議事	1、第 2 回目の対話・つながり・実現の場 の開催方法、進め方等について			

議事項目	概要	次のステップ
1、第 2 回目の対話・つながり・実現の場 の開催方法、進め方等について		
進め方(案) 1 について	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那北駅周辺再生WG、伊那弥生ヶ丘高校将来活用WGは、情報を揃えること、目線を合わせることが難しそうであるが、このWGでは第 2 回目で、みんな情報共有すること、同じ目線で一緒にやっていくということを伝えることが絶対条件だと思う。方向付けというよりは性格付けをしっかりとやりたい。 ・第 2 回目の導入は、第 1 回目の振り返りを行う。第 1 回目に出たキーワードを紙で参加者に渡して、第 1 回目の成果を共有する。参加者がその場で考えなくても、もう一度第 1 回目のキーワードから拾い直し、このキーワードや考え方は面白いからもう 1 回付箋で貼るということもできる。みんな関係付け、カテゴリ付けをやるプレストの 2 回目の場になればよいのではないか。 ・このWGは、人が中心で、そこに人がいるからまちであるという性格付けを大事にしたい。 ・第 2 回目は、付箋の色を若者、子育て世代、シニアと 3 種類くらいに分けて、付箋で属性を分けたい。20 代はどう思う、70 代はどう思うという属性を抽出できる仕立てがよいと思う。 	

- ・自分が20代の頃、40代の頃、まちとどんな関わりをしていたのか、それを挙げられない人は、例えば自分ではないけれど40代ぐらいのこういう人がまちでこんな活動していて素敵だと思ったというような、経験に即したものを挙げていくと、ただブランディングが必要といった抽象的な付箋は貼られないのではないか。
 - ・2つのテーマで、1つは、時間軸を掘り下げてみる年表的なもの、もう1つは、空間軸を広げていくマップ的なものを対話の中で作っていく。それを何チームかやることで参加者みんなが作った年表的なものどマップ的なものという成果物が見られる。
 - ・第1回目の対話の場の繰り返しになりそうであるが、最低限年代の属性がわかり、テーマを空間と時間で分けているため、ある程度整理されたものが仕上がり、参加者が俯瞰して楽しめるのではないか。
 - ・年表もまちの年表だけでなく、生まれてから年を取るまで、人の一生に見立てた年表も作って、10代はどうまちに関わるか、40代はどうか、50代、60代はどうか、世代ごとに分けて、まちとどう関わるかを参加者みんなが把握するのも面白いと思う。
 - ・時間と空間でテーマを分け、テーブルもパパッと分けて、20分1タームくらいで対話するイメージ。
 - ・まずは、参加者みんながとにかく視線を低く、みんなが同じ場で、共通の理解をして、同じワークに参加しているということが、このWGの狙いではないかと思う。
- WGメンバー
- ・時間軸、空間軸という2つのテーマであると1グループの人数が多くなりそうである。
- WGメンバー
- ・たとえば、時間軸、空間軸それぞれに3グループあって、20分経ったら入れ替えるといったイメージである。それぞれのグループごとに模造紙を作成していく。
- WGメンバー
- ・例えばレトロというキーワードは、このスポットがレトロであるということであれば、空間軸でも話せるし、どの世代の人がレトロ好きかということであれば時間軸でも話ができるというように、どんなキーワードでも空間軸、時間軸に落とし込める器の大きなテーマだと思った。

<p>進め方(案)2について</p>	<ul style="list-style-type: none">・最初に参加者に共有するキーワード集は、データマイニングでできたようなものでなく、あらためて第1回目に挙げられたものを基に作るということか。○WG メンバー<ul style="list-style-type: none">・第1回目の面白かった付箋や、良かったという感想等を抜粋しながら、ヒントになるようなものを作るイメージである。○WG メンバー<ul style="list-style-type: none">・進め方(案)2は、「Place、Identity、Vision」と明確に分けて問いを立てるという、未来の目標があるものでわかりやすかった。時間軸と空間軸で分けて対話をした場合に、第3回目以降に向けて、どんな問いが出てくるのか、ちょっとイメージがわからなかった。○WG メンバー<ul style="list-style-type: none">・進め方(案)2の「Place、Identity、Vision」という3つのテーマを取り上げる場合でも、進め方(案)1のように属性をはっきりさせて問いを立てるということは大事であると思う。○事務局<ul style="list-style-type: none">・属性は非常に重要だなと感じた。年代にプラスして、今現在のまちとの関わり方でも分けて、それぞれの考え方を確認してくのもよいと感じた。○事務局<ul style="list-style-type: none">・第1回目で「まちなかでいろいろやりたいけれどターゲットを誰にしようか困る」といった話も出ていた。属性で分けて整理すると何か見えてくるものがあると思う。○事務局<ul style="list-style-type: none">・宿題として提出されたWGメンバーからの第2回目の進め方(案)を見て、WGで勝手に問いを立てるのではなく、参加者みんなで問いを立てるというワンクッションが必要というのは、メンバーの共通認識であると思った。進め方(案)2の「問いを立てる」ことを第2回目のテーマとするというのは、ストレートですごくわかりやすいと思った。○WG メンバー<ul style="list-style-type: none">・第1回目の話を集約すると、場作りに関する関心と、「伊那市らしさとは何だろう」という魅力を再発掘したいといった関心があり、さらにまだまだ話し足りない、深掘りしてみたいという意見があったために、「Place、Identity、Vision」という3つの柱を立てた。	
--------------------	--	--

- ・ Place については、「場所に関して対話してください」という大きなテーマで、具体的に問いを立ててもらうのがよいと思っている。問いの例としては「多様な人が交流する場の新しい形とは」、「すでにある場所の新しい使い方とは」などが想定できる。
 - ・ Identity については、例えば「地元住民、移住者、これから移住しようと思っている人たちにとって、伊那市の魅力とは何か」、「伊那市の魅力・地域資源を使って、あなたはどんなことがしたいか」といった問いが想定できる。
 - ・ Vision については、「これからの新しい町づくりとは」といった問いが想定できる。
 - ・ 対話をしながら考えが変わることもあると思われるので、他のグループに移って対話したい人は移っても構わない。
 - ・ 第3回目に向けて、どの問いについて取り組みたいかを決めて、次に進むイメージである。
 - ・ 第2回目が始まる前に第3回目がいつなのかを参加者に伝える必要があると思っている。
 - ・ ワークショップが進むにつれて、参加者が何を達成できるかイメージできると参加する意欲に繋がると思う。
 - ・ WG で勝手に決められることではないが、積極的に何かをやりたいという参加者がいれば、協議会に参加してもらってもよいのではないかと思う。
 - ・ 第2回目でやる必要はないが、市民にも使える制度を知る機会を、いずれ設けたほうがよいと思う。
- WG メンバー
- ・ 多分、進め方(案)1 と(案)2 の考えている仕掛けや、やりたいことはほぼ同じだと思う。
 - ・ 進め方(案)1 は、まだ状況把握の観察が足りておらず、目線合わせが不十分だという認識からの案である。
 - ・ 進め方(案)2 は、Place から Vision(問い)を立てる、Identity から Vision(問い)を立てるというものであるが、第2回目で果たして参加者と一緒に問いを立てるところまで辿り着くか、性急に見えないかが気になっている。
 - ・ 参加者に第1回目のフィードバックがどの程度あるかを考えると、参加者が「えっ、問いを立てるの？」と思う可能性はある。

- ・進め方(案)2は、もしかしたら第3回目にやってもよいのかなと思う。
 - ・まちなかには、「すまいテラスいな」や、「本と駄菓子と、、、それぞれ」、「いなまちベース」などいろいろな居場所があるが、第1回目では、それを知らないで「居場所がない」と言っている人がたくさんいるという印象を持った。すごく抽象的にまちなかを捉えている人がそのまま抽象的な言葉で対話をしており、具体がそこにあるという状況であったので、この段階で観察終了としてしまうのはいかなものかと感じている。
- WGメンバー
- ・たしかに、第1回目の参加者は、まちなかについてのどの程度知っているか、かなり幅があると感じた。
 - ・参加者の視線が合うように、今どうなっているかという状況把握を行うことは大事だと思う。
- WGメンバー
- ・今聞いていて、まだ少し観察、発散するフェーズがあるべきだと思った。
 - ・第2回目を、どんなテーマにするかはまだわからないが、また観察、発散になるテーマで進め、第3回目に進め方(案)2のように問いを立てるという方向に持っていければよいのかと思う。
 - ・何かしらまちづくりに関わりたいと思っている人たちが集まり、まちづくりの関係人口が増え、我々の手を離れて市民がまちづくりをしていくという形を目指すのであれば、市民自らが問いを立て、その問いによって何かアクションを起こしていくという流れが必要であると思う。それが将来的には持続可能性のあるまちづくりに繋がると思う。
- WGメンバー
- ・先日松本市で行われた県主催の空き家のフォーラムで長和町の若者が空き家を使ったまちづくりの発表をしていた。発表の中で、いかに新しい人たちが入ってくるようにするかという内容の話をしており、すごく大事なことだと思った。
 - ・第1回目で別のWGの対話に参加していた人でまちなかエリアWGにも参加したいと思っていた人や、第2回目で初めて参加する人が、参加しづらいという形ではなく、新しい人たちがどのタイミングで入ってきて、そこから新しい流れが生まれるような仕組みができないかと思った。対話のテーマとともに

<p>第2回目は、まだ観察・発散フェーズ？</p> <p>進め方(案)3について</p>	<p>に、そういった新しい人が入ってきやすい場づくりの方法もみんなで考えられればよいのではないか。</p> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・進め方(案)1でも(案)2でも、第2回目に初めて参加する人が入りやすいかと思うが、より丁寧さも必要ということか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・回を重ねていったときに、どんどん新しい人が入ってきててもよいような器を先に作っておくことが大事だと思う。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・第2回目は、問いを立てる前の、もっと現状を知るという時間にするということが、今日のWGここまでの共通認識と思うがどうか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・例えば、進め方(案)2で、Visionの主語は伊那市でよいと思うが、Identityの主語は、それぞれの個人になるのではないかと思う。・PlaceとそれぞれのIdentityを持った各年代の個人個人が、どういう課題感を持ち、どんなことがやりたいということを持ち寄って、Visionが立ち上がっていくのではないか。・主語の伊那市が出てくるのはまだ段階として早く、各年代のIdentityをもっと把握したい。・このWGの進んだ先にできたものが、伊那市ではなくて駒ヶ根市でも通用するものになっては意味がない。いなまちに人がいるということに、どこまでしっかり寄り添えるかが大事だと思う。・生の声をしっかり拾うということがまだ尽くせていないのであれば、まだまだ観察が必要だと思う。・その観察の方法を第2回目ではどう提示するか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・伊那市新しいまちづくり協議会の目指す姿があるので、最終的にそこに通じるものを一緒に考えていくという方向性はよいと思う。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・対話・つながり・実現の場などに参加した人が次のアクションの核となり、それまでまちづくりに興味がなかった人たちをも巻き込んで、自発的にアクションが起こり、まちづくりが行われるという状態を将来像だとするならば、「まちづくり関係人口が増える」という現象①と、「核になる人が出てきてアクションを起こしていく」という現象②が、WGや	
--	--	--

行政の手を離れて自発的、持続的に起こる状態を最終的なゴールとして、逆説的にどんな問いを立てたらよいか、どんな議論が必要かを考えられればよいのではないか。

- ・現象①②が起こるためには、見たいもの、知りたい情報が、すぐに得られる状態になっている必要があると思う。
- ・伊那市全体・いなまちの魅力、歴史、文化のポジティブ面、ネガティブ面、核になる人が何を考えているかすら見える状態になっていれば、現象①②は起こるのではないか。

○WG メンバー

- ・進め方(案)3にある「見ようとすれば(わかろうとすれば)情報が得られる状態になっている」について、どういったイメージを持っているか。

○WG メンバー

- ・インターネットや、SNS といったデジタル的なものは当然として、すまいテラスいなの延長線上のようなリアルな場かもしれないし、口コミといった言葉のコミュニケーションかもしれない。
- ・現象①②が起こることをまちづくりとするならば、良いことも悪いことも含め、見える・わかる状態になっていれば行動する人が増えるのではないか。
- ・であるならば、インターネットであろうがリアルであろうが、見える・わかる状態をプラットフォーム(基盤)として整えていくことが、伊那市としてこのWGで投資すべきところではないかと思う。
- ・個人的には、いなまちを魅力的にとか、持続的にというところに留まらず、「まちづくりとは何か」とか、自助、共助、公助といったところにまで踏み込んで「30年、40年先に伊那市なくなっちゃうよ」というくらいのお話をするとよいのではないかと思っている。

○WG メンバー

- ・進め方(案)3の資料1枚目の図は、まちづくりでもあるし、人づくり、学びの図とも言い換えられると思う。このビジョンをしっかりと練って、図にしておくことは大事である。
- ・例えば各世代の人がまちづくりに関わりたいと思ったときに情報がわかりやすく整理されている状態をつくっておくことが、このWGのビジョンとして整理されるとよいと思う。

○WG メンバー

	<ul style="list-style-type: none">・進め方(案)3の方向性は、このWGの方向性として提示できると思う。・その方向性の中で、今回はこういうワークショップをやりますということを示せばよいし、現象①②を起こすためには、毎回常に新しい人が入ってこられる状態をつくる必要がある。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・進め方(案)3の問い「現象①②を自然発生的かつ持続的に起こり続けるために何の要素が必要か」については、疎外要因を挙げていく方が比較的簡単であると思う。これはダメだろうという阻害要因を挙げていくと、意外に少しずつ輪郭が見えてくる。輪郭をみんなで整えるといった作業で、共同研究などでよくやる面白い作業である。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・進め方(案)3の方向性は、対話・つながり・実現の場の参加者に絶対伝える必要があると思うが、第2回目なのか、第3回目なのか、どうやって示していけばよいか。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・例えば第2回目で、第1回目のまとめのテキストを配るのと一緒に、我々のワーキンググループの性格付け、特徴をこうまとめましたという感じで、ダイヤグラムなどで見せるのはありかもしれない。・通り町は、学び・人を育てる場所だったという歴史的事実もある。正統的周辺参加論というが、具体的なプログラムというより、このWG自体が学びになっているということも、どこかのタイミングで参加者に伝えられるかもしれない。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・21日(金)までに、第2回目で何をするか事務局に提出しなければならないということであるが、ここまでの話であると、第2回目は、いなまちが現状どうなっているかインプットの時間を多めに取り、もう一度対話をしてアイデアを発散するという全体的なイメージでよいか。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・今日のWGでは、第2回目は、参加者の属性に沿って、こういう人はこういう思いがあるという主語をはっきりとした対話をしていきたいという話になった。・進め方(案)3で示されたこのWGの役割と目指す方向性は、今日のWG参加者の中では共感が得られ、	<p>第2回目では、参加者の属性がわかるアウトプットを行う。</p>
--	---	------------------------------------

	<p>重要であるとの共通認識を持つことができた。しかし、第2回目で参加者に示すかは結論が出ていない。</p> <ul style="list-style-type: none">・第2回目に初めて参加する人のために、第1回目の振り返りを丁寧に行う必要があるということも共有できたと思う。・実際に、どのようなグループ分けをするかというあたりまでは、今日は話ができている。・第2回目に第1回目と同じくらいの参加者があった場合に、何人くらいのグループをどう作って回していくか具体的なたたき台があると次回議論しやすい。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・議論しやすいようにテーブルの配置図などを資料的に作成してみる。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・ワールドカフェではなく、属性やテーマでグループ分けをしてワークショップをするイメージであるか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・ワールドカフェ形式だけれど、ルールが明確というイメージである。Identityであれば、若者、子育て世代、シニアで付箋を3色に分ける程度の属性の把握が必要であると思う。例えば、レトロが良いというもの、若者にとってのレトロの良さ、シニアにとってのレトロの良さが180度違う可能性がある。その解像度の粒感をあらかじめ高くしておいてから、問いに向かわないとダメだという意味合いである。・ファシリテーターは、ルールを守ることに徹すればよく、対話を誘導する必要はない。・PlaceとIdentityの2つに分かれて、その中でグループ分けしてく形がよいのではないか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・PlaceやIdentityといっても、すぐにイメージを持って話せるかわからないので、具体例で説明があった方がよいと思う。・年代以外の属性の分け方は必要であろうか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・年代が色分けでわかるとしたら、書きたい人は付箋の端に職業を書いてもらうということではよいのではないか。	<p>進め方(案)3のこのWGの役割、方向性について、今日のWG参加者から共感が得られた。</p> <p>新しい人がどのタイミングで入ってきても、そこから新しい流れが生まれる場づくりを検討する。</p>
--	--	---

	<ul style="list-style-type: none">・抽象的ではなく具体的に、その人の振る舞いが見える形で事例を挙げてもらうこととし、年表やマップができたときに、全員がわかりやすいものとして俯瞰できるようにする。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・第2回目の進め方のたたき台として、どのようにグループ分けをするかと、属性の分け方の案を、19日(水)のWGに、提示いただければありがたい。・進め方(案)3の資料1枚目の図は、今日のWG参加者の共感を得たと思う。あの図にもっとWGメンバーの意見を入れて、わかりやすく、共通して使えるものにしていきたいと思うので、19日(水)のWGでもあらためて説明いただきたい。どのタイミングであの図を参加者に示していくかということも含め議論していきたい。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・承知した。WGメンバーの中で、あの図で大丈夫ですかという確認をしたい。・市民の対話の場といっても、WGとして方向性を持っていないと、対話の場の方向性が定まらなくなってしまったり、落としどころがわからなくなってしまう気がしている。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・WGメンバーの意見に、「より多くのまちづくり活動(プロジェクト)を増やしていく」と、「問いから生まれたモノに政策メニューを合わせて官民協働事業を立ち上げていく」という2つのWGの狙いの例があった。今日の議論では前者寄りの方向性になっていると思うが、後者の意見についてはどうか。民意が根拠になるため事業化の説得力はある。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・市として、この協議会からの事業化をどの程度期待しているのか。そこについては、これまでの運営委員会で話題に出たことはない。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・そもそも、対話の場やまちづくり関係人口が増えることがまちづくりというならば、予算は必要ないし、それが民意ならばそれでよいのではないか。・今までは、予算を確保して事業を行うために、有識者を集めて公聴会をやって民意の裏付けを取るという発想であったと思うが、今回は、みんなでどういうことをやりたいかを対話して、そこから生まれた	<p>19日(水)のWG時に、第2回目の進め方たたき台を提示いただく。</p> <p>19日(水)のWG時に、進め方(案)3の資料について、あらためて説明いただく。</p>
--	---	--

事務連絡	<p>ものに対して予算が要らないのであれば、それはそれでよいと思う。</p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・ゼロ予算で、自発的にまちづくり活動がどんどん増えていくのももちろんよい。・例えば、さきほど話のあった誰でもいつでも情報を得られるような状態が必要であるという民意があり、そのために基盤の構築が必要となれば、事務局とすれば予算化・事業化を目指す。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・自分が示した資料1枚目の図が、このWGで合意を得たとするならば、あの図の状態は、行政の手を離れて、市民が自発的にまちづくりを起こしている状態を目指している。もしそこで予算が必要であれば、どんな補助金等のメニューがあるかも見えるようになっていて、市民が選べばよい。・個人的には、例えばすまいテラスいなを高度化するであるとか、情報を見える化するための基盤構築とか、そういったことにしか行政のお金は使わなくてよいと思っている。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none">・1月21日の対話・つながり・実現の場のまとめ資料に、各テーブルファシリテーターにどんな対話が行われたかコメントを入れていただく宿題が出ているので、まだのメンバーは2月14日(金)までをお願いをしたい。	
------	---	--

■今後のスケジュール

- ・ 2月19日(水) 正午～ オンライン (市役所1階103会議室横 web meeting room)

WG